

山岳友の会会報

2019年1月 第32号



撮影：荻野 秀夫

もくじ

年頭のご挨拶	会長 山口 孝	2
第37回現地研修会（礼文・利尻）リレー寄稿（紀行）後編		
3日～5日目	竹原 文子	2
利尻登山その2	横田 耕太郎	4
第39回現地研修会（四阿山）	報告 小林 久雄	6
第40回現地研修会（徳本峠）	報告 竹原 文子	7
信州フィールド科学賞・第12回憧憬の森講演・会員交流会		
	報告 小林 久雄	7

年頭のご挨拶

友の会会長 山口 孝

友の会の皆様、明けましておめでとうございます。

御健勝で新年をお迎えの事とお慶び申し上げます。

昨年も多くの行事、企画に御参加いただきありがとうございました。

本年も中身の濃い研修会を一杯御用意致しました。どうぞ御自分の体調とスケジュールに合わせて、御参加いただければと願っております。

メイン山行は東北の名峰早池峰山(1917m)に出かけます。6月20日(木)～24日(土)の2泊3日の山旅を予定しております。

さて、我らの御大である鈴木啓助教授が今春の3月をもって退官する運びとなりました。鈴木教授の支援部隊である我々友の会として、今までの御苦勞と御指導に感謝すべき会を予定致しました。2月1日(金)にアルモニービアンで退官祝賀パーティーを行います。当日はいつもより少し着飾っての昼食会となります。

本年も皆様にとって穏やかで素晴らしい一年となるよう願ってやみません。



第36回現地研修 勝沼ぶどうの丘にて

第37回現地研修会(礼文・利尻)リレー寄稿(紀行)後編

礼文島～利尻島旅行記 ー3日～5日目ー

竹原 文子

礼文島トレッキング 3日目(6月8日)

快晴とはいかないけれどまずまずのお天気。風は強いかも?今日は、桃岩展望台から知床までのトレッキング。

登山口でバスを降りてゆっくりの上り。桃岩展望台まではのんびりと登山。両側にはいろいろなお花が見られ、写真を撮るのも忙しい。前回は、展望台では飛ばされそうな強風で難儀しましたが、きょうはじっくり周囲を見渡せました。

桃岩からツバメ山を経て知床まで。ゆるやかな上り下りで、お花いっぱいのもとても楽しいコース。ツバメ山からは眼下に元地海岸。地蔵岩・猫岩なども見えています。



昼食の後、利尻山登山組と分かれバスで元地海岸へ。午前中に見下ろした地蔵岩・猫岩・桃岩などの奇岩をじっくり目の前で観察して、カナリヤパークへ。

昔を思い出す古い校舎がなつかしい。残念ながらまだ映画を見ていないので、帰ってからの楽しみとします。きれいに穴が開いた不思議な貝殻が珍しく、受付でお願いしたら人数分くださいました。エゾタマキガイという貝殻だそうで、ツメタガイという巻貝が捕食したあとだそうです。昨日のゴロタ浜でもたくさん転がっていて、拾えるとのこと。

宿に戻り、美味しい夕飯の後、いつものことですが仲間同士と楽しい飲み会。笑い転げて充実の一日を終えました。

礼文島の花：ネムロシオガマ・ハクサンチドリ・チシマゲンゲ・レブンシオガマ・アサギリソウ・イワベンケイ・タカネグンバイ・チシマフウロ・レブンアツモリソウ・クゲヌマラン・レブンコザクラ・ミヤマオダマキ・オオバナノエンレイソウ・シラゲキクバクワガタ・レブンハナシノブ・レブンウスユキソウ・エゾイヌナズナ・エゾカワラナデシコ・エゾヒナノウスツボ・ハマハタザオ・オオヤマフスマ・イワツツジ・サクラソウモドキ・レブンソウ・エゾノハクサンイチゲ・レブンキンバイ・クロユリ etc.



レブンキンバイ

礼文島から利尻島へ 4日目（6月9日）

早朝から開いている土産物屋で、お土産探し。宿でも美味しい干物をお願いして、お土産は完了。

曇りがちだがところどころ青空も。楽しかった礼文島ともお別れして、いよいよ利尻島へ。

海が荒れるとフェリーも大揺れと聞きましたが、今日は波も穏やか。利尻島は見えています。利尻富士は半分雲隠れ。登山組は雲の中でしょうか？

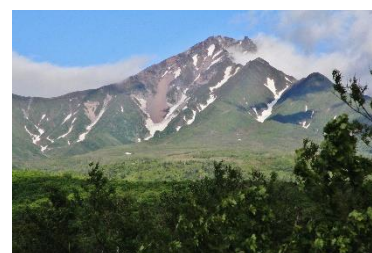
40分ほどで利尻沓形港へ。ここでもまたウニ丼をいただいてから、今日の利尻トレッキング出発地の北野野営場へ。このルートは、途中まで登山組が通ったところです。私たちはのんびりとポン山へ。ポン山はすばらしく見晴らしの良いところで、真下に町並みや滑走路、鴛泊港がのぞめます。ちょうど飛行機とフェリーのコラボが見られました。北野野営場に戻る途中で、登山組の先陣がもう下りてきてびっくり。さすがみなさん健脚ですね。野営場でしばらく休憩してから、あとはバスで利尻島の一周観光。



ちょっと小高い所にある姫沼。ここからは利尻富士が目の前に見えているけれど、残念ながらまだ山頂は雲。姫沼を一周ハイキングして、バスは海岸沿いをオタマリ沼へ。

この沼は海が近いので、たくさんの海鳥が利尻富士をバックに舞っていました。食いしん坊の私たちは、湖畔の売店で美味しいホタテ焼きをいただき、よく分からないまま店主からお汁までサービスしていただいたような…。とにかく美味しかったことしか覚えていません。ごちそうさまでした。みなさんニコニコでバス乗車。

宿に帰る途中で、稚内から出稼ぎに来ているゴマちゃん(ゴマフアザラシ)と遊んで、そのころになるとやっと利尻山頂の雲が切れてきて、全容出現。すっきりとした美しい全景、富士と呼ばれるだけのことはありますね。一日の終わりに利尻島の象徴をのぞむことができ、みなさん大満足。よかったです！



後は、一路今夜のお宿へ。

今回の旅行では、企画からガイドまで笹木さんにすっかりお世話になりました。笹木さん無くしてはこのような楽しい旅行はできませんでした。わがままメンバーで大変だったと思います。本当にありがとうございました。

利尻島で見た花:エゾカンゾウ・アマドコロ・マイヅルソウ・クルマバソウ・ツバメオモト・ツルシキミ・ゴゼンタチバナ・オオヒョウタンボク・ルイヨウボタン・コマヤマカタバミ・ジンヨウイチヤクソウ・ヒメイチゲ・エゾノツバムグラ・ノビネチドリ(白)・オオダイコンソウ・オオカサモチ etc.



ツバメオモト

再び稚内へ 5日目(6月10日)

朝は冷えまして。早起きして近くを歩いたら、霜、霜。今日は晴天になりそうです。ペシ岬に上ってみました。100m 弱の展望台ですがすばらしい眺望で、目の前に利尻富士がそびえ、礼文島もくっきりと。海は真っ青で、底までのぞけます。深さによって色が変わり、息をのむ美しさ。もっといたいのを我慢して、宿にもどって朝食。

冬の装いの利尻山登山(6月9日)ー利尻登山その2ー

横田 耕太郎

6月8日午後、5名のメンバーは利尻島に入りました。予報通りすっきりしない空模様の利尻島でしたが、幸い雨に降られず、9日の利尻山登山では霧氷も見られました。

10日、利尻を離れ帰京の途につく我々の目に、その全ての姿を見せた利尻富士は「またおいで」と語りかけているようでした。



利尻島に着くと、すぐに定期観光バスで島を一周しました。我々が到着した時、すでにバスには多くの方が乗車していました。シーズン真っ最中、ツアーだけでなく個人で訪れる方も多いですね。妙な調子の語り口のバスガイドの案内で、名所というかお土産屋さんの集まる場所に停車しながら、バスは島内を巡ります。『ヤマセは鴛泊方面は寒いが沓形方面は陽が出て暖かい』の言葉通り、沓形から利尻山の山頂が一瞬見えたものの、見る場所によってその姿を変える山の形は拝むことができません。そんな旅人の心を癒すかのように、アザラシが愛想を振りまいていました。観光が終わり、迎えの車で宿へ。ペンション・レラモシリ



は利尻島生まれの島でガイドをはじめ幅広く活動されている方がオーナーです。宿のちっちゃな温泉で汗を流した後の夕食は、お洒落な感じです。ビールの他にワインを1本あけました。食後は部屋で英気を養った後、明日の天気期待しながら、布団に入ったのでした。

登山当日は4時スタート。いつも早起きですが、3時半起きは結構きついです。他のお客さんの都合かな? 登山口の利尻北麓野営場までは車で5分ちよとです。

利尻山は往復で標準コースタイムは10時間。その間、トイレは携帯トイレで済ます事になります。トイレブースは結構広くて使いやすかったです。やはり小3回が限度ですかね。

樹林帯は風の影響もなく、少しずつ標高を稼いでいきます。一合目毎に標識が建てられており、標高の確認もしやすいです。

ガスで見通しが悪い日は、こういう標識があるとありがたいですね。





前に通けるオオバナノエンレイソウ

登りは休憩をはさみながら、とにかく歩きます。

六合目あたりからだんだん木々はその背が低くなり、見晴らしはガスに包まれ、強い横風に吹かれるようになります。傾斜もだんだんきつくなりますが、咲く花を見ながら標高を稼いでいきます。あたりが明るくな



ったと思ったその時、目に飛び込んできたのは凍りついた枝や葉っぱでした。我々の雨具につく水滴も凍りつく風の冷たさ。足元には風で吹き飛ばされた氷が散らばり、顔に当たると痛いです。

八合目、長官山を過ぎる頃、突然目の前のガスが切れ、利尻山がその姿を現しました。荘厳な

その姿、しかし、まだ高い!!そこから少し下った所に避難小屋があります。



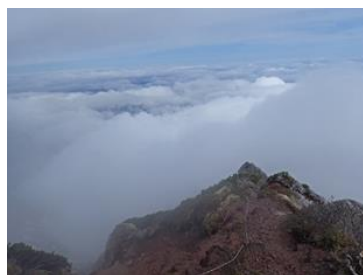
咲き誇るエゾエンゴサク

ふと見ると、ザゼンソウが咲いていました。湿原でもないような場所で見かけるのは初めてで驚きました。エゾエンゴサクがジュータンのように咲き乱れていて、強風で折れそうな心を癒してくれます。

避難小屋を過ぎると急登の連続、九合目の看板には「ここからが正念場」なんて書いてあります。



両側が切れた場所では吹き飛ばされそうになり、きつい階段を一步一步登ります。火山岩の切通しはスコリアが溜まっていて歩きにくいです。でも、風除けになって有り難い。



振り返れば雲の海、やがて右手の稜線が切れ、ローソク岩と頂上も見えたりして、期待が高まります。

登り始めてちょうど 5 時間で頂上(北峰 1719m)に全員無事、到達しました。

沓形方面が雲の合間から顔をのぞかせますが、残念ながら 360 度の海はお預けです。日差しは少しありますが、やはり風が寒いので記念写真などを撮った後、先ほどの切通しまで下り休憩することにしました。



「下りは花の写真を撮りながらゆっく

りと・・・」なんて思いましたが、融けると思った霧氷は溶けず、飛ばされた氷が足元に積もり、少しはマシになったかと思われる風も相変わらず強く、のんびりと言うわけにはいきませんでした。クリーム色のエゾノハクサンイチゲは強風に耐え、可憐な花を咲かせていました。

見慣れたマイヅルソウも葉が大きくて立派、行者ニンニクが道端にいっぱいありました。



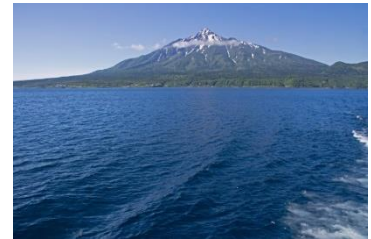
高山と里山で見られる花が入り混じって咲いているような植生は、北海道ならではの環境かも知れません。

約3時間半、下り終えて野営場の散策路まで下った所で、予想通り、ポン山へ向かう礼文満喫コースの皆さんと出会いました。1名、その仲間と再びポン山へと向かわれたのは驚きと、これまた「やっぱり」。

宿からの迎えはグッドタイミング。一仕事終了後の温泉とビールはやはり心地よいですね。

最後の日に晴れるという事はよくありますが、最終日の10日はまさにその言葉がぴったりの青空が広がりました。

稚内への戻りのフェリーからも、利尻山はいつまでも美しいその姿を見せていました。



稚内からは本州最北端宗谷岬までは、慌ただしい移動でしたが、5日間我々を安全に運んでいただいたバスの運転手さんに別れを告げて、飛行機で帰京したのです。

第39回現地研修会（四阿山）報告

小林 久雄

今年は暑いですね。そして台風などもイベント直撃、大変です。

台風19、20号が無事に通過して久々の台風一過と思ったのですが.....残念。雨こそなかったのですが.....霧に覆われた登山でした。



鳥居峠から林道を4Km程で駐車場に、今回は8名が参加し8時半に出発。登山口の駐車場や登山道は良く整備されています。しばらくは植林のカラ松林が続き、やがてドングリの綺麗な原生林もやがて白樺へと変化し、ひと汗して「的岩」につきました。更にシラビソの林を登ると、1時間程で合流地点のあずま屋に、そこからは尾根づたいに山頂に。

孺恋村の綺麗なキャベツ畑や浅間の麓が霧の晴れ間に見えて、足元には風に震えるマツムシソウ。シラタマの微かに鼻をつく懐かしい香り、信仰の修験者や真田一族はこの山を駆け巡ったのか？何かを成し遂げた人たちのお山って感じだ。遠く白山信仰にも繋がる山並みに浅間山。

飛騨・信州・上州の古い人たちにも思いを寄せた「山旅」。霧が取れずに展望には恵まれなかったけど、約2時間で全員登頂しま



した。帰りは名湯「別所温泉」で疲れを癒して帰宅しました。お疲れ様。

♪ 『 目を凝らし 風に震える マツムシソウ 』 ♪ ひさお

第40回現地研修会（徳本峠）報告

竹原 文子

せっかくの徳本峠越えが、雨になってしまいました。

遠くから苦勞して来てくださった方、ありがとうございます。

そんな中、9名中4名のみなさんが頑張って峠越えに挑んでくださいました。お疲れさまでした。

今回は地震のアクシデントで事務局長が参加できなくなり、急きょドタバタで不行き届きもあったこととお詫び申し上げます。事務局の山口さんにもお世話をおかけしました。



といろいろありましたが、やはり囲炉裏を囲んでのお食事（飲み会）は楽しいですね！

炭焼きのサンマは絶品でした。

これから秋が深まってくると、ますます囲炉裏が恋しくなりますね。

もう囲炉裏を囲んでのイベントはないのかなあ・・・とつれづれ思う今日この頃です。



信州フィールド科学賞・第12回憧憬の森講演・会員交流会報告

小林 久雄

12月1日Mウイングで信州フィールド科学賞の受賞式と講演会がありました。受賞は日本学術振興会京都大学農学部東さん(120mにも育つ高い樹木)で、講演会では葉の先からの蒸散により根から水分が分子的な結合で鎖状に引上げられる等の興味深いお話をいただきました。ツリークライミングで高い木々の上部での研究される快活な女性のエネルギーにも驚かされました。

引き続き「友の会」来年度計画への意見では、早池峰登山や甲斐駒・仙丈に乾徳山などの希望があり、8年目の計画にも多様なお話で盛り上がりました。また、3月に退官される鈴木教授の「お疲れ様感謝の祝賀会」を2月1日に予定して調整中の話題もあり、早々に具体化して募集の方向性が話題となりました。早めに調整したいと考えます。

第12回憧憬の森講演会は、信濃毎日新聞の長戸さんよりSBC午後の生番組『ずくだせテレビ』の様々な話題を講演頂きました。

木曾の上松町出身で林業やスキー場で働き、30歳頃に信濃毎日新聞に入った経緯などの話に始まり、番組作りの裏話などを具体的にお話いただきました。

小竹亭での交流会(忘年会)にも多数参加いただき来期の夢も語り合いました。



信州大学山岳友の会会報 第 32 号

発行日：2019 年 1 月 9 日

発行：信州大学山岳友の会

〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1

信州大学山岳友の会事務局

TEL：0263-37-3332

FAX：0263-37-2438

E-mail：suims@shinshu-u.ac.jp